

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	自主生産品の製作販売などを通して、地域における利用者や職員、ボランティアの存在感を高めている
	内容	障害者とその家族を、地域と共に支え地域福祉の充実に努めていくことを方針としている。コロナ禍で、利用者の作業種の見直しが迫られる中、職員提案で自主製品開発に着手した。製品開発は、地元の会社や生産事業者とのコラボレーションを経験し、製品の販売を通して施設の存在を地域に広く発信する機会にもなっている。当事業所開設前には、偏見や反対意見もあり、苦しい思いをした時期もあったが、今では、近隣住民が職員やボランティアとして、自主生産品の製作や販売を支える存在となり、さらに、新しい地域貢献の形を温めている。
2	タイトル	生活介護を中心とした事業所でありながら、法人理念に基づき、働くことを通じた貢献を大切にしている
	内容	当事業所は、生活介護サービスを行っているが、生活介護の利用者であっても、働くことに関わり、働くことを通じた地域への貢献を大切にしている。利用者の書いたイラストを活用した製品の開発、保管していた生地でのマスク作りをボランティアさんに依頼し、紐通しや袋入れ、販売を利用者の仕事としたり、利用者の絵をタオルに刺繍するニコニコタオル作りを仕事にするための工程の改良も進めた。取り組みの結果、売り上げは昨年度の4倍近くとなり、工賃もボーナスで昨年度の倍額を出すことが出来ている。
3	タイトル	利用者主体の活動を大切にし、運営の動きについても、“利用者と共に”丁寧に行っている
	内容	利用者に対しては、設立当初から、毎月の全体会の場を設けている。当初は、職員からの報告の場であったが、全体会を継続することによって、利用者からの提案も行われている。現在は、次月のチーム・クラブ活動について話し合い、予定を確認したり、利用者の希望を聞いている。全大会では、ホワイトボードを使い、作業や利用者、職員がわかるパネルを用意して、活動内容を共有している。また、法人や事業所の方針と成果を報告する事業報告会も、設立依頼継続しており、法人および事業所の運営を、職員、利用者やその家族にも等しく詳らかにしている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	処遇の改善のための議論を集約しており、給与と連動した人事考課制度の構築が期待される
	内容	職務内容が体系的に整理され、職員とも共有されている。また、職員個別の研修計画が策定され、内外の研修機会も確保されている。規定に基づき、人事考課が毎年行われているが、今年度より法人として人事改革プロジェクトが立ち上げられ、法人の理念や目標となる人材育成制度、給与と連動した人事考課制度構築に取り組まれている。施設では女性職員が多数を占める中、男性の利用者が多いため、男性職員の確保も課題であり、男性職員の職務内容の見直しや人事改革プロジェクトを通じた職員全体の意欲の向上に資する処遇の改善が期待される。
2	タイトル	法人の理念の下、中長期計画と整合する施設としての中期計画の策定に取り組まれない
	内容	法人としての今後5年間の中長期計画、年間計画は作成されているが、施設としての中長期計画は未策定である。事業拡大に伴う職員育成の必要性、施設の事業環境の変化に応じた作業種の開発、新たな地域貢献など、中長期の課題についての議論も行っている。施設の運営基盤の強化のため、法人内事業所とも足並みをそろえ、サービスの拡充、専門人材育成、地域貢献、広報、危機管理などの項目を含めた、法人の中長期計画と整合する、今後、3～5年程度の事業展開を見据えた施設としての中長期計画が策定されることが望ましい。
3	タイトル	利用者主体の方針を貫き、施設利用者と共に、利用者を中心とした、新たな地域貢献活動への挑戦に期待したい
	内容	コロナ禍の中、今年度は自主製品の売り上げが4倍になり、ペットボトルのフタ回収事業活動や店舗でのマスク販売など事業や販路の多様化、チラシやSNSによる情報発信などの情報提供、実習者、ボランティアの常時受け入れや見学、施設体験の受け入れなどを通じて地域との繋がりが強まった。一方、コロナ禍のため、以前より検討されていた利用者による美化清掃活動は断念し納涼祭も中止となった。防災拠点整備のための活動も限定的にとどまる中、地域との連携・貢献の両側面より、利用者が地域で生き、活動するための新たな挑戦に期待したい。